

肩甲上腕関節脱臼整復法に学ぶ

－骨頭位置とゼロポジションからの考察－

県南支部 鷹脣隆則

キーワード： 全身の中の肩関節 肩の複合構造 肩のバイオメカニクス

【背景】

令和8年度「日整匠の技」は肩甲上腕関節脱臼を重点部位としていることから、今回は挙上整復法（ゼロポジション）を例にとり科学的根拠に基づき**骨頭の動き**を考察した。

【目的】

肩甲上腕関節脱臼整復法の徒手整復法の論文は医科でも少なく、柔道整復師の整復法は経験や勘にたよった発表が多いことから、根拠に基づく整復理論として「肩の複合機構」と「肩のバイオメカニクス」から分析する。

【方法】

ゼロポジション整復法は挙上牽引法で、筋の働きが骨頭を関節窩に引き付ける作用との説明が多いが、挙上法・回旋法・牽引法・槓桿法・直圧法等、それぞれの整復法と理論的には全て共通しており「肩のつくり」と「肩関節の仕組み」から、挙上整復法と内転外旋整復法を比較し実証する。

【結果】

ゼロポジションとは、「肩甲棘と上腕骨が一直線となり上腕骨骨頭と臼蓋との接触面が広く支点がしっかりとし、上肢が動き易く筋肉などに余計な負荷が掛からず一番負担の少ない肢位」とある。

脱臼位での上肢挙上操作では骨頭は脱臼位にとどまり上方移動せず、外旋挙上操作と骨頭を下方から操作し脱臼路に復する技量を要し、整復後にゼロポジションとなる。

このことからゼロポジション整復法は挙上整復法であり**「患肢を術者が保持操作し易い整復法」**である。

【考察】

ゼロポジション整復法は挙上整復法であり、整復後にゼロポジションとはなるが、骨頭を脱臼路に復する技量として、他の整復法と同じ理論が成り立つ。

「全身の中の肩関節」である事を「肩の複合機構」と「肩のバイオメカニクス」から立証する事で、**各柔道整復師が得意とする整復法**で肩甲上腕関節脱臼整復法理論として確立できることを推論し発表とした。